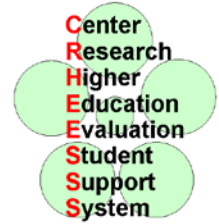


週刊センターニュース

No.240



第240号（2009年1月5日）毎週月曜日発行
発行：金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL：http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

○●○FDと“学士力”答申—教育内容改善の具体的目標—○●○

12月24日、中央教育審議会は、『学士課程教育の構築に向けて』と題した答申を文部科学大臣に提出した。「大学生の学習目標「学士力」規定を」（朝日新聞）、「＜中教審＞国に「学士力」の指針明示求める 学力水準低下で」（毎日新聞）など、キーワードを「学士力」として報道された。昨年4月からのいわゆるFDの法的義務化を念頭に議論が行われてきたものであり、答申案時点の内容も本紙第233号、234号で紹介してきたが、これで日本の大学教育改革は新たな段階に入ることになる。

大学設置基準ですべての大学・短期大学に義務付けられたのが、「授業内容」「授業方法」の両方の改善のための「組織的な研修」と「組織的な研究」であることは、すでに本紙、共同学習会、あるいは教育企画会議等で、努力義務から法的義務となることが予告された文部科学省令改正時から、指摘してきたとおりである。「金沢大学における教育方法、教育システム、評価システム及び学生支援体制の研究開発を行う」（センター規程第2条）をミッションとし、本学のFDセンターとしての機能を持つ当センターでは、改正省令施行に併せ、毎月の教育企画会議において、昨年4月以降、FD報告を行ってきた。「（教育内容等の改善のための組織的な研修等）第二十五条の三 大学は、当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。」との条文に照らし、毎月のFD報告は「組織としての研修・研究」を本学が行っていることの証左となる。

FDは、組織として実施される以上、一定の計画のもとに予算を計上し必要な人員の配置により実行される。しかも、学部単位での単発の講演会開催などに終わることなく、継続的日常的な改善努力が大学全体で行われ、それが研究に裏打ちされたものであることを設置基準は求めている。本紙はFD研究活動・成果の報告であり、共同学習会や大学評価研究会が学内の組織的研究の場となっていることはご存じのとおりである。また、大学教育学会（本学の清原岑夫元教授らが立ち上げた学会であり、FDの必要性を説き、学士課程教育という概念を提唱した学会である）等において、センター教員が論文を発表し口頭報告を行っているのは、普遍的なものを目指すべき研究としては必然である。

さて、こうしたFDは、学士力育成という目標を設定した上記答申により、新たな段階を迎えたことになる。

答申は、具体的な学位授与方針の表明、学力不振が続けば退学を勧告するGPAの導入などを列挙し、大学が成績評価や卒業認定について厳格に判断することなどを求めている。そのうえで、大学生が共通で身につけるべき学習成果を「学士力」と規定し、知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、および統合的な学習経験と創造的思考力の4分野で、コミュニケーションの能力や自己管理能力など計13項目を学士力の指針として示した。これを参考に、各大学で学習成果を重視した教育を進めることになる。

大学設置基準の改正はFD義務付けと合わせて、各学部等の人材育成目標の明示を求め、それ

に適合した教育内容であることを要請した。シラバスはその具体化である。あらかじめ示した基準にもとづく厳格な成績評価をも義務づけた。それを前提にして、既に本学でも、金沢大学履修規定第14条の規定によりGPAが全学標準となった。これからは、そうした成績学力に加えて学士力が一つの標準・目標となる。

学士力は学生生活の様々な場面で伸びるが、大学の教育責任はまず、授業において果たすことが求められることは言うまでもない。例えば、本紙や共同学習会等で紹介し、授業内容・方法改善の一つの効果的な手法として推奨できる「ミニッツペーパー」は、要約力・判断力・質問力を鍛えるものである。ミニッツペーパーを毎時間用いること、それを成績評価対象の一要素とすることは、明らかに学士力向上につながるものである。このように、学士力を意識した教育内容の効果的な改善に結びつく教育方法改善について、今後とも研究を続ける必要がある。

高等教育の諸課題の中で、既述した当センターの使命遂行がますます重要になっていることを思いつつ、新年を迎えることとなった。今年も、当センターの諸活動に対するご注文、ご協力をお願いする次第である。

(文責：センター長 教育支援システム研究部門教授 青野 透)

○●○ 共同学習会のご案内 ○●○

第209回 日時：1月13日(火) 10時30分～12時(曜日・時間が通常と異なります。ご注意ください)

会場：総合教育1号館2階大会議室

テーマ：秋季(9月)入学制とカリキュラムについて考える

発表者：西山宣昭(大学教育開発・支援センター)ほか

趣旨：本学は、平成20年度政策課題対応経費の支援を受けて「9月入学の調査研究及び入試・教育体制の整備」に関する調査研究を現在すすめている。本学における9月入学制導入の可否、実現可能性等について検討する判断材料を得るべく、本事業の一部として、外国語教育研究センター、留学生センター、国際学類の先生方のご協力を得て、秋季入学者を念頭においた海外大学への学生派遣と単位互換の可能性について海外調査を実施していただいた。今回はその概要を紹介するとともに、海外からの外国人留学生の入学を想定した場合のカリキュラムの実現可能性についても議論したい。

第210回 日時：1月20日(火) 16時30分～18時(曜日が通常と異なります)

会場：総合教育1号館2階大会議室

テーマ：「大学の命運を握る学生寮」

発表者：志村恵(人間社会研究域歴史言語文化学系)

概要：学生募集の観点からも留学生30万人計画の観点からも、学生寮のあり方が大学の魅力を左右する最も重要なポイントだといわれている。大学とコミュニティーを結ぶ「場」として(大東文化大学)、初年次全人教育の「場」として(昭和大学、豊田工業大学)、国際大学の顔として(立命館アジア太平洋大学)学生寮を活用している諸大学の実践例に学びつつ、金沢大学における寮の位置づけについて議論したい。寮問題に関心のある教職員・学生の参加を心から呼びかけます。

○●○第6回大学教育セミナー(予告) ○●○

「FD・ICT教育推進室が進めている学士課程教育の改革に伴うFD推進と教育実施・支援モデルの構築(最終報告)」

主催 大学教育開発・支援センター

共催 総合メディア基盤センター、学生部

日時 2009年2月14日(土) 13:00-17:45 情報交換会：18:00-19:30

会場 ホテル金沢(金沢駅前)